

2014年度

事業報告

2014年4月1日から

2015年3月31日まで

公益財団法人 神林留学生奨学会

1. 事業活動

(1) 外国人留学生奨学金支給事業／活動、研究への助成事業

①2014年4月23日(水)

選考・審査委員会開催。2014年度奨学生として大学院生14名の採用を決定（継続採用3名を含む）。同研究助成9件の採用を決定。

②2014年4月25日(金)

採用者および大学宛に採用通知発送。研究助成採用通知発送。

③2014年 4月1日～2015年 3月31日

2014年度奨学生に対し、各12万円を月々支給。（但し、4・5月分は5月に支給）

2014年度研究助成 7件に対し5月に各50万円、1件に対し5月に30万円、1件に対し9月に50万円を支給、さらに11月に2件に対し残りの50万円を支給。年間合計530万円（30万円：1件 50万円：6件 100万円：2件）となった。

④2015年1月13日(火)

2015年度募集書類（推薦依頼）を指定大学（36校）宛発送。

(2) 奨学生に対する奨学支援事業

①2014年5月24日(土)

「2014年度奨学生採用式」を開催。また、採用式終了後の歓迎昼食会では奨学生、研究助成者と財団役員の交流を図り、あわせて生活指導を行った。

（出席者25名）

②2014年8月25日(月)～8月26日(火)（1泊2日）

奨学生、研究助成者、財団役員を対象に夏季研修旅行「金沢1泊2日旅行」を実施。「ゆのくにの森」、「那谷寺」、「医王の里オートキャンプ場」、「兼六園」、「21世紀美術館」、「金沢箔座」等、金沢の美術館や由緒ある施設を中心に、芸術と自然の調和を堪能し、石川県の芸術、歴史を知るよい機会となった。また、石川県観光物産館では和菓子作りを体験し、日本の伝統的な菓手に触れる機会を得た。

なお、移動の車中や見学先で行動をともにしたことや、宿泊先での食事会等で、奨学生は国、地域、研究分野を超えて交流を深め、相互理解を促進できた。また、財団役員との交流を図るとともに、研究の相談や生活指導等も行った。

③2014年9月30日(火)

奨学生の「エッセイ、小論文」の提出締切。

奨学生の、日本と自国に対する思いや留学での関心事、研究内容等を把握する上

で大変役立つ。同時に、生活指導の資料として貴重なものとなった。

④2014年12月7日(日)

年末交流会を上野・精養軒で開催。奨学生、研究助成者、奨学生OBとその家族、財団役員が一堂に集い、相互交流を図り親睦を深めた。(参加者60名)

⑤2015年2月

奨学生に対し、卒業の可否、次年度の進級・進路予定等の確認を行った。

⑥2015年3月25日(水)

2014年度奨学生「卒業報告会」並びに「卒業生お祝会」を学士会館で開催。卒業生からは、論文のサマリー発表を、進級者からはこの1年間の研究発表が行われ、互いの研究内容を知り、相互啓発、交流を図った。

(卒業生 博士2名(出席:2名)、修士3名(出席:2名))

⑦奨学生に、日本、アジアの文化芸術を学んでいただく目的で、次のイベントに参加した。同時に役員、奨学生の交流を図った。

1) 2014年6月22日(日)

「歌舞伎鑑賞教室」(ちいさんばあさん)鑑賞(於、国立劇場小劇場)

2) 2014年6月27日(金)

「花柳昌三郎舞踊公演」鑑賞(於、鍊仙会能楽研修所)

3) 2014年8月16日(土)

「田大成テノールリサイタル」鑑賞(於、文京シビックホール小ホール)

4) 2014年11月2日(日)

「アジアの歌と音楽の夕べ」鑑賞(於、文京シビックホール小ホール)

5) 2014年12月9日(火)

「文楽(伽羅先代萩/紙子仕立両面鑑)」鑑賞(於、国立劇場小劇場)

(3) その他

①3月16日(月)、17日(火)に一橋大学と共催で「Trans Pacific Labor Seminar」を開催した。

2. 附属明細書について

平成26年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。

3. その他

2015年3月2日をもって、株式会社カスミは、ユナイテッド・スーパーマーケット・ホールディングス株式会社を完全親会社、株式会社カスミを完全子会社とする株式移転を行った。これにともない、株式会社カスミの株式は、ユナイテッド・スーパーマーケット・ホールディングス株式会社の株式に1対1の割合で変更された。これによる評価替えはしていない。

以上